

# ジェンダーと兄弟姉妹関係 パプアニューギニアにおける女児死亡の事例を基に

Gender and Sibling Relationship:  
From the Empirical Study in Papua New Guinea

小谷 真吾

- |               |               |
|---------------|---------------|
| ①家族とジェンダーの構築性 | ⑥人口構造及び性比の動向  |
| ②男児選好を巡る議論    | ⑦性選好の傾向       |
| ③パプアニューギニアの   | ⑧世帯内食物分配      |
| ジェンダーと「女児死亡」  | ⑨アデ関係         |
| ④調査の対象地域      | ⑩アデ関係の背景      |
| ⑤カルリの社会と日常    | ⑪ジェンダーと兄弟姉妹関係 |

## 【本文要旨】

本研究では、家族内の子供のジェンダーについて、パプアニューギニアにおける女児の高死亡率に関する事例研究を行なうことによって、特に兄弟姉妹関係に焦点を当てながらその動態を追求する。現在、近代家族の構築性についての認識は近年の社会科学において広く共有され始めているが、家族内のジェンダーに関する分析において、多様な社会形態における子供のジェンダーに関する研究は、そこに多くの問題群が存在するにも関わらず、ほとんど行なわれてこなかった。その子供のジェンダーが関わっている問題の一つとして、低年齢層における「女児死亡」の問題がある。この問題は、男児選好についての研究をテーマとして追求されてきているが、社会の構築性及び多様性に対する視点が欠落している。筆者は、1998年11月から1999年11月までの約1年間、パプアニューギニア高地辺縁部に居住するカルリと呼ばれる言語集団において各種の調査を行ない、当該地域において「女児死亡」の問題が存在していることを明らかにし、その人口学的動態を分析した。その上で、参与観察に基づいた分析を行なうことによって、「女児死亡」は、親による差別によって起こるのではなく、「姉」が「弟」の世話ををするという、当該地域に特有の兄弟姉妹関係によって起こっている可能性が高いことを示した。そしてその構築性について、親が多く死亡しているという人口構造が、兄弟姉妹を軸とする社会構造の背景となり、その結果「姉」の主体的な意思決定が尊かれるという動態を明らかにした。本研究の結果に基づけば、親子関係のみに着目して「女児死亡」の問題、ひいては家族内のジェンダーを論じることは、問題を正しく理解できないだけではなく、解決の方法を探る上での障害になりかねないと考えられるのである。